幼稚園の理解の普及の必要

倉橋惣三

いつでもであるが、毎年四月には殊に思ふことである。幼稚園といふものに對する、世間の理解の餘りにも少いことゝ、驚くばかり間違つてゐたりすることである。三月頃の新聞には、幼稚園の必要、不必要が囂々として論じられる。そして、相當無責任な幼稚園攻擊論が出たりする。なかには、平生幼稚園のことに近い關係をもつてゐる人で、幼稚園の缺點列擧を平氣でやつてゐるのがあつたりする。一般世間の理解程度も察せられるのである。殊に、新らしく入園を希望する人々が、隨分いゝ加減な理由を述べたり、少くも、その理由がこんなあやふやであつたりすることが稀でない。困つたことゝ思ふのである。

ところで、なぜそうなのか。話を聊か逆らせ過ぎるやうであるが、我國では、學校にしたつて、その本質的理解は、案外よく普及してゐない。たゞ、學齡になつたから、隣の子といつしよに學校に入れる。入れるも入れないもない。四月になれば花が咲くのと同じ位に心得られてゐるのもあるかも知れない。中等學校にしたつて、子どもが行きたいといふし、小學校だけではねといふ位のことで、つまりは後々のためを考へるだけで、中學校なり高等女學校なりが、一體どういふ本質のものか、それはよく知らなかつたりする。幼稚園も、そのお仲間である。新らしく義務制になつた青年學校なんか、まるで理解せられてないのを慨かれたりするが、古くからある幼稚園が、まだそうなのである。これらはつまり、どこでもその理解を進めようとせず、教育に關する國家の計畫を、しつかり或は懇切に、國民に知らせる方法が執られないからである。その爲、なかには、幼稚園に入れてから話を聞いて、はゝあ、そういふのですかといつたりするのがある。失望するのでなく、大に喜ぶのであるからいゝやうなものゝ、初めから、それが分つて希望したのであつたらと、少々あつけない譯でもある。

更に考へて見ると、その方法に就て國の懇切が足りないといふ外に、當面の自治體が、自ら公立の幼稚園を立てゝゐながら、その力の入れ方が甚だ不充分であり、世間にその熱意の示し方が足りないのも、おのづから因をなしてゐるのであらう。ほかの行政でも同じだが、教育行政は特に、行政主體の熱意によつてこそ生きるものである。上級學校には力こぶを入れる割に、幼稚園のことなんか、目からこぼれるのが、高級行政官といふのでは、何んともしようがない。それはえらいのでなく、教育の關心の網の目があらいだけの話であるが、我國では、行政官に教育行政の教養が充分でない場合もあつた。それで、こんなことも起るのである。

しかし、こんな風に、人に求めてのみゐても仕方がない。幼稚園に直接關係してゐる、卽ち、世に先んじて幼稚園を理解してゐる者が、世間の理解を進めることに、もつと力をつくさなければならないのであるまいか。勿論それ〴〵行つてはゐるが、まだ、足りないのであるまいか。それも、我が園の宣傳といつた風に見える方法でなく、全般的に、幼稚園教育そのものゝ理解をすゝめるやうに、個々、又協同の努力がいるのであるまいか。東京の或る近縣の町で、春近くなると、町全體へ呼びかけて、幼稚園の理解をすゝめる試みを毎年行つてゐるところがある。至極いゝことだと思はれる。必ずしも、そうした方法ばかりでなく、協同のポスターなども一法であらう。青年學校に就ては、此法が執られてゐて、效果が多いと聞いてゐる。大阪市で「幼稚園はどういふところか」といふパンフレットを一般に配布したことがあり、今つづいて行はれてゐるかどうか知らぬが、流石に氣のはいつたやり方だと感心したことがある。その文に、私の舊稿が用ゐられてあるので、私の口からその效果を吹聽することは心臟が强過ぎるし、もつといゝ文章なら尙いゝと思ふが、その方法は確に有效なるべきものである。「幼兒の母」の三月號も或はそんなことに利用して頂いたらと思つてゐた。兎に角、講演なり、ポスターなり、文書なり、いろ〳〵の方法があるであらう。但しこれは、どこまでも全體的に、一般的に、幼稚園といふものゝ理解を進めるためで、各園が自分の園をよく思はせるために、假りにも他の園の非難をしたりするのは、そんなこともあるまいが、若しあつたら、それは却つて、幼稚園といふものゝ理解を害することになる。私のこゝに言つてゐるのは、共同戰線といつたことであるのは言ふまでもない。

幼稚園を理解させ、一人でも多くが、正しい理解を以て幼稚園に來るやうにすることは、幼稚園のためといふよりも、日本の學齡前幼兒のためにすることである。我田引水のやうだなんて、そんな氣兼ねは一切いらない。